

令和7年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。学生数が増えたことにより、以前より経済的に困窮している家庭の学生や不登校を経験した学生、メンタル面に不安を抱える学生などケアが必要な学生が増えた。学生の生活環境やメンタル面の情報収集の為、早期に学生面談を実施することにより学生個々の特性を把握し、退学防止並びに学生満足度を向上させるようきめ細やかに対応した。

基準2. 学校運営

ファッション専門課程の在校生数は前年度より増員することができた。またデジタル専門課程の留学生は過去最高の在籍数となり、教育活動収支単独での黒字化に貢献した。資産運用は前年度に続き米国市場が堅調に推移し、保有金融資産の上昇による運用益により、黒字化を確実なものとした。令和8年度の学生募集はファッション専門課程は前年度を若干下回り、デジタル専門課程は令和8年度より午前午後コースの導入により大幅に学生数を増加することが出来た。総在校生数がさらに増えるため教育事業単独での黒字化継続が視野に入る範囲になった。

基準3. 教育活動

ファッション専門課程ファッションクリエイイト科は、昨年同様新入生30名に対して教員2名体制で臨み、2年生も23名に対して2名体制に増員することにより教育指導の充実を図った。1年次後期よりファッションCADスキル、パターンメイキング検定、グラフィックワークなど選択授業を取り入れ学生の学びの意欲に対応できる体制を整えた。選択授業のアイドルプロデュース衣装製作もアイドルメンバーも7名体制となり、作品構成もより充実した内容となった。6周年LIVEや桜丘ファッションショーでの新作衣装お披露目で好評を得た。デジタル専門課程の留学生は、2年生36名、1年生36名と最大の人数となり、2年生に於いては全体的に教育の水準を引き上げることに苦心した。留学生教育では全員に目が行き届く学生数の範囲は20名から25名程度が限界であると推察され、今後のクラス運営の参考となった。

基準4. 学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイイト科が受験するパターンメイキング検定3級の1年生の合格率63%と昨年より大幅に悪化している。2年生の3級、2級は全員合格した。学年による学力の差がある。ファッションビジネス科の1年生のファッション販売能力検定3級は合格率79%、昨年

68%から改善した。2年生の2級は合格率47%、昨年54%より悪化した。

1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率50%、昨年57%より若干悪化した。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格率は83%、モジュール2は70%と昨年より低下した。産学協同プロジェクトでは、昨年につきレディスアパレルメーカー株式会ピーアンドエムと“レディスアパレルのサステイナブルな取り組み”として販売スタッフの制服で使用した商品を回収して、リメイクなどアップサイクルしフリーマーケット等で再販、売上を千代田区経由で寄付を行った。

基準5. 学生支援

現状1年生の59%（昨年60%）が奨学金や就学支援制度を必要としている。就学支援新制度（学費の給付）に関しては1年生の13名、30%が支援を受けている。ほぼ昨年同様の人数が就学の支援を必要としている。就学支援制度の認定基準は継続してクリアできる体制が整ったので金銭面で学生の支援体制を充実させることが出来ている。また、就職支援に関してもオンライン形式の説明会や面接は学校の施設を開放し、個別対応の面接指導、エントリーシート、履歴書添削などをきめ細かく行い活動の支援を行った。就職内定率は、技術科は83%（昨年75%）、ファッションクリエイイト科、ファッションビジネス科は74%（昨年74%）、デジタル専門課程の学生は60%で就労ビザ取得は5名となった。

基準6. 教育環境

学科特性上女子学生が多いため衛生環境改善の為、1号館、2号館ともにトイレの全面改修を実施した。また、座学の授業に対応するため現状の2名使用の長机から一人用の学習机を新たに導入し学習環境の改善に取り組んだ。また、学生数の増加に伴いミシン等の学習機器も一人1台を基本として新規購入を行った。

基準7. 学生の募集と受入れ

ファッション専門課程ファッションクリエイイト科はアイドルプロデュース衣装製作のカリキュラムの人气が継続し定員充足。ファッションビジネス科は昨年同様出願者が伸び悩み改善の兆しが見えなかった。デジタル専門課程の1年生出願者は160名。前年より増加し厳選して入学者を決定することができた。

基準8. 財務

教育事業単体での黒字化が達成され、保有金融資産の売買益が最終利益の上乗せとなった。但し、学内環境整備に継続して資金を振り向ける為、一時的なキャッシュアウトや原価償却費が恒常的に上昇する為、更に経費管理を厳格にし、収益を継続的に上げられる体制を整える必要性がある。

基準9. 法令等の遵守

継続して、文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。学生に対しては金融機関と連携して金融経済教育を実施し、金融トラブル、カードトラブル、フィッシング詐欺、闇バイトなどに巻き込まれたり、関わらない様に事前に情報提供を行った。

基準１０．社会貢献・地域貢献

毎年、６月には千代田区の生活環境の整備に関する条例に基づき、毎年６月と１１月に実施されている千代田区一斉清掃に参加している。学校周辺を清掃することにより、たばこの吸い殻などポイ捨てなど学生のマナーに対する意識付けに役立てるとともに、当日をドレスコード登校日に指定して、スクールカラーのピンクの服装で清掃活動を行うことで近隣住民や通勤、通学で区内を訪れる方々に環境美化に対する啓発活動を行っている。また、産学協同プロジェクトでご協力いただいているレディスアパレルメーカー株式会ピーアンドエムと“レディスアパレルのサステイナブルな取り組み”として制服をリメイクなどアップサイクルしフリーマーケット等で再販、売上を千代田区経由で寄付を行った。